

大阪 あーかいぶず

「あーかいぶず（Archives）」とは、英語で公文書、文書館という意味です。

目 次

令和7年度上期企画展示 開催のお知らせ 「EXPO'70 がのこしたもの」	1
令和6年度古文書講座を開催しました	2
【資料紹介】 『学校日誌』にみる 1945 年の大阪大空襲 —大阪府立夕陽丘高等女学校を事例として—	3
第39回大阪府公文書館運営懇談会を開催しました	8

第66号 令和7年3月
大阪府公文書館発行



令和7年度上期企画展示 開催のお知らせ 「 EXPO'70 が のこしたもの 」

大阪府公文書館では、2025 年日本国際博覧会（略称：大阪・関西万博）の開催に合わせて、企画展示「EXPO'70 がのこしたもの」を行います。

大阪府では、1960 年代より EXPO'70 の成功への礎（いしずえ）となる、道路・鉄軌道・大阪（伊丹）空港・港湾などのインフラの整備と、公害対策・上下水道・福祉・公園などの生活環境の向上を目指した整備が「万国博関連事業」として推進されました。

皇室の行幸啓・行啓のご訪問先には、EXPO'70 の会場視察とこれらの万国博関連事業に関わる施設が含まれていました。昭和天皇陛下は EXPO'70 を 3 回行幸され、展示を大変熱心にご視察されるお姿から「万博ファン」や「万博通」と呼ばれることがありました。そして、この EXPO'70 を機に、昭和天皇の外遊の機運が高まり、翌年、天皇・皇后として揃って初外遊されることとなりました。

さらに EXPO'70 のレガシーとして、会場の跡地に整備された万博記念公園には、新たに国立民族学

博物館が建設されました。太陽の塔や鉄鋼館など EXPO'70 パビリオンの一部は保存・リニューアルされ、往時の賑わいを今に伝えています。未来のモノであった「ワイヤレスホン」・「電気自動車」も、さらに進化して日常生活に普及しています。それらの遺産は様々な形で私たちにのこされています。「昭和 100 年」の節目にあたる今年、昭和の日本を象徴した歴史的行事 EXPO'70 がのこしたものを振り返ります。



常設展示コーナーでは、公文書館の沿革やこれまで
に刊行された出版物を紹介しています。また、鳥瞰図
(ちょうかんず) 絵師・吉田(よしだ)初三郎(はつさぶろう)
が描いた「大阪府鳥瞰図」(昭和7 [1932] 年)
の原本資料を展示しています。

大阪府公文書館へ是非お越しください。

■展示期間

令和7年4月1日(火曜日)から9月29日(月曜日)まで
ただし、土曜日・日曜日・祝日、年末年始を除く
午前9時から午後5時15分まで(最終日は正午まで)

■展示場所 大阪府公文書館展示室

所在地：大阪市中央区大手前 2-1-22 府庁本館 1 階

令和6年度古文書講座を開催しました

大阪府公文書館では、歴史的価値の高い公文書など
を身近に感じていただくとともに、これらの資料を保存し、
後世に引き継ぐことの大切さを理解していただくために、
古文書講座を実施しています。今年度は、令和6年9月30日
(月曜日)、大阪府庁本館5階「正庁の間」で、『古文書講座
(初級編)』を開催しました。

本講座では、古文書に触れてはいるけれど、まだ十分に
くずし字を読めない方のステップアップに役立つよう、
当館所蔵の庄屋文書の中から幕臣使節(諸国巡見使)の
迎接について、江戸中期の宝暦10(西暦1760)年に
記された古文書をテキストとして使用しました。

(当館 HP <https://archives.pref.osaka.lg.jp> 上の「>>これまでの企画イベントはこちら」からテキスト pdf をご参照ください。)

はじめに、くずし字の特徴を理解するのに必要な、
異体字や変体仮名といった字体、候文や返読文字などの
文体、古文書の様式とともに、くずし字の読解ツール
(辞典やデータベース)の活用、解読の手順といった
基本的な内容を確認しました。

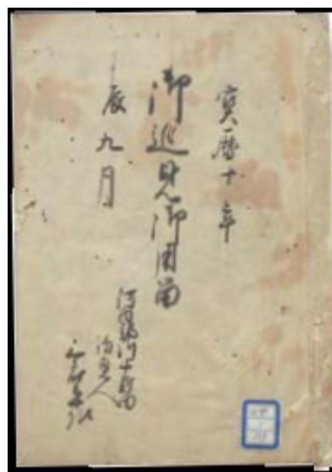


講座風景

つぎに、使用したテキストの歴史的背景、宝暦10
年の諸国巡見使の足取り等の解説を行いました。くず
し字の読解にあたって、point①くずし字の「部首」を
を見つける、point②御/取/相/不などの「接頭語」を見
つける、point③「踊り字」、「ゆすり」などを見つける
ことにより、くずしの特徴を把握し、各文字を読み解
いて行くことで、文意を把握するという流れを解説し
ました。

以上、参加者の皆さんに、庄屋文書に記された一文
ごとの翻刻を通じて、古文書の読み解きに触れていた
だき、今後の学習に役立つポイントの理解を深めて頂
きました。

【講座を終えて】今回の歴史講座には36名の方々が
参加され、熱心に聴講いただきました。短時間で内容
も多岐にわたりましたが、おかげさまでおおむねご好
評をいただくことができました。今後とも、皆様に喜
んでいただけるような企画に努めてまいります。



本講座で使用了テキストの表紙

【資料紹介】 『学校日誌』 にみる 1945 年の大阪大空襲 —大阪府立夕陽丘高等女学校を事例として—

■はじめに

2024 年 8 月 15 日、終戦の日に合わせて、高知県旧大津小学校の明治から昭和まで 95 年分の『学校日誌』を紹介するニュースの報道特集が放送された。第 2 次世界大戦下の学校日誌は、戦災で校舎の焼失、あるいは戦後の学校の統廃合により廃棄されたケースが多いといわれるなかで、日中戦争が起きた 1937（昭和 12）年から終戦の年まで揃っている旧大津小学校の『学校日誌』はいかに貴重な資料であるかを解説されている^{1）}。

『学校日誌』は、本来、学校の教員が日々の学校日常を記録するものである。ところで、世の中に起きた主な出来事や関心事に対して、学校側の視点から記されるものはしばしば見受けられる^{2）}。かかる性格の『学校日誌』という学校文書を通じて、行政文書とは異なる角度から、その時代を示す社会問題は何かを学校の立場からみることができる興味深い資料であるといえよう。『学校日誌』は、読み手の関心によって、学校日常の解明はもちろん、戦時下の学校がどのように戦争に巻き込まれていったかを解明する手がかりにもなりうると考えられる。

第 2 次世界大戦下の大阪といえば、大阪の人々の記憶に深く刻まれているのが、1945 年のアメリカ軍による空襲だったと挙げることができる。この大阪空襲について、小山仁示教授の『改訂 大阪大空襲—大阪が壊滅した日（新装版）』（東方出版、2018 年）は、日米双方の公式記録資料や空襲体験者へのインタビューなどに基づき、その実態を克明に解明している。ただし、空襲体験者へのインタビューには当時中学・高等学校の生徒の大変貴重なものもあったが、動員先の工場で受けた空襲の記憶がほとんどである。そのため、空襲による被害は実際にもっと広範囲だったにもかかわらず、戦争の遂行を支えた民間工場の被害だけが強調されるきらいがあるように思われる。

大阪府公文書館では、1927（昭和 2）年から 1947（昭和 22）年までの大阪府立夕陽丘高等女学校の『学校日誌』を所蔵している。太平洋戦争期から終戦後の占

領期までの『学校日誌』を紐解いていけば、空襲を含めた戦時下の大阪の実態解明に役立つ資料になるのではないと思われる。

本稿は、大阪府立夕陽丘高等女学校の『学校日誌』を主に利用し、学校側の視点から 1945 年の大阪空襲をどのようにとらえていたかを紹介することにより、大阪空襲に関する既存のオーラルヒストリー研究を補おうとするものである。

大阪府立夕陽丘高等女学校『学校日誌』（大阪府公文書館所蔵分）

請求記号	簿冊名
K0-0040-145	学校日誌 昭和 2 年 1 月～1 2 月
K0-0040-146	学校日誌 昭和 3 年 1 月～1 2 月
K0-0040-147	学校日誌 昭和 4 年 1 月～1 2 月
K0-0040-148	学校日誌 昭和 5 年 1 月～1 2 月
K0-0040-149	学校日誌 昭和 6 年度
K0-0040-150	学校日誌 昭和 6 年 1 月～9 年 3 月
K0-0040-151	学校日誌 昭和 10～13 年度
K0-0040-152	学校日誌 昭和 14～16 年度
K0-0040-153	学校日誌 昭和 17～19 年度
K0-0040-154	学校日誌 昭和 20～22 年度

■大阪大空襲

第 2 次世界大戦末期、1944 年 7 月のサイパン島陥落などの戦局悪化により、アメリカ軍の B29 爆撃機による日本主要都市の大規模な空襲が可能となった。

戦前日本最大の商工業都市であり、大阪陸軍造兵工廠などの軍需工場を数多く抱えている大阪は、当初から爆撃の目標とされた。小山教授の研究によれば、1944（昭和 19）年 12 月 19 日の中河内郡三宅村（現在松原市）、瓜破村（現在大阪市平野区）への爆撃を皮切りに、終戦前日の 1945 年 8 月 14 日の大阪陸軍造兵工廠への大爆撃まで、アメリカ軍による大阪への爆撃は約 50 回を数えたという^{3）}。そのうち、「超空の要塞」（スーパーフォートレス）と呼ばれるボーイング B29 爆撃機による百機規模以上の爆撃は 8 回もあった（次ページの「大阪大空襲」一覧表を参照）。

大阪大空襲（1945年）				
	日時	来襲敵機（B29）	投下弾	主な被災地域
第1回	3月13日23時57分 ～14日3時25分	274	焼夷弾 1,733トン	浪速区、西区、南区、港区、大正区、東区、西成区、天王寺区
第2回	6月1日9時28分 ～11時0分	458 P51（少数）	焼夷弾 2,789トン 機銃掃射	港区、此花区、大正区、福島区、北区、天王寺区、東区、大淀区
第3回	6月7日11時9分 ～12時28分	409 P51（138機）	焼夷弾爆弾 2,594トン 機銃掃射	都島区、大淀区、旭区、淀川区、東淀川区、豊中市、福島区、北区
第4回	6月15日8時44分 ～10時55分	444	焼夷弾 3,157トン	西淀川区、天王寺区、生野区、東成区、西成区、淀川区、北区、東区（ほかに尼崎に大被害）
第5回	6月26日9時18分 ～10時22分	173	爆弾 1,140トン	此花区、福島区、西淀川区、城東区
	7月10日1時33分			

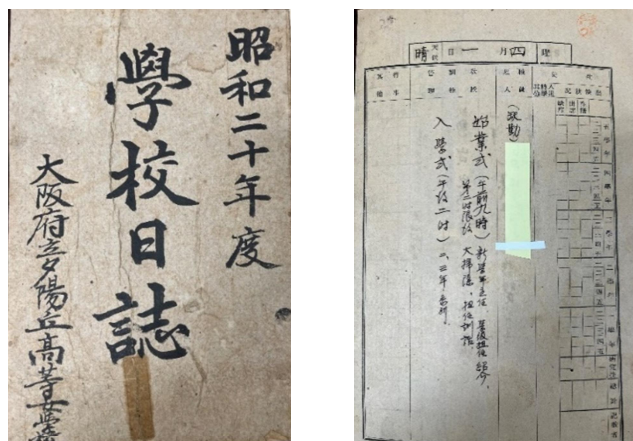
このアメリカ軍の爆撃により、大阪府域は人的にも物的にも壊滅的な打撃を受けた。小山教授によれば、大阪市人口は1945年2月末の212万人から、終戦直後の1945年8月末の111万に激減したという。1945年3月の第1回大空襲を経て終戦までの半年の間に、100万人余りも減ったのである⁴。また、明治維新以来築いてきた全国有数の大阪の重工業地帯も甚大な被害を受けた。ちなみに、大阪府の公文書も実は空襲から思わぬ損害を受けている。それは、空襲に備えて府庁の重要書類が京橋と放出の倉庫に疎開されていたが、空襲で京橋倉庫が焼失したため、明治期から昭和戦前期にかけての貴重な公文書のほとんどを失ってしまったことである⁵。

■『学校日誌』にみる大阪大空襲

まずは、大阪府立夕陽丘高等女学校について簡単に触れておく。

大阪府立夕陽丘高等女学校は、1948年の学制改革により、男女共学の大阪府立夕陽丘高等学校となった。同学校は、1906（明治39）年3月9日、大阪府立島之内高等女学校として設立され、1909年1月18日に大阪府立夕陽丘高等女学校と改称した経緯を持つ。校舎は、もともと天王寺区夕陽丘町にあったが、1934年より同じ天王寺区の北山町に移転し、現在に至る。

【図1】



次に、府立夕陽丘高等女学校『学校日誌』（以下『日誌』）について、【図1】は『日誌』の表紙と中身の一頁を示すものである。4月1日の『日誌』をよむと、「始業式（午前九時）・・・」、あるいは「入学式（午後二時）・・・」というように、学校の行事に関する情報を実に簡潔に記している、ということがわかる。

戦前の『学校日誌』の記入を担当した者は、小学校の場合、校長に次ぐ筆頭格の教員だったといわれている⁶。高等学校の場合も同様ではないかと推し量ることができようが、【図1】のように、「記載者」の欄は空白のため、記入者は不明であった。ただし、記入欄の外に、「清水」の判が押されている。府立夕陽丘高等学校発行

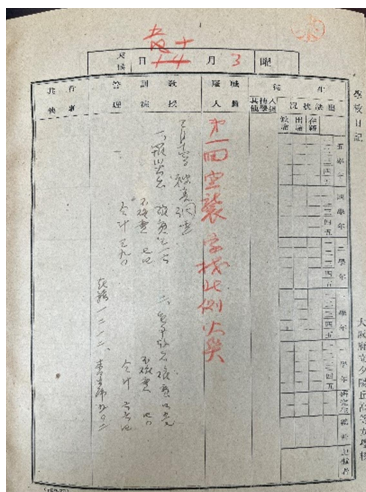
の『創立八十周年記念誌』（以下『記念誌』）によれば、「清水」とは、1944年4月より第7代校長になった清水治郎ではないかと思われる⁷。

先述した「大阪大空襲」一覧表の主な被災地域によれば、天王寺区に位置する府立夕陽丘高等学校は、第1回、第2回、第4回の大空襲を受けたはずである。以下では、『学校日誌 昭和20～22年度』（請求記号：K0-0040-154）に記されている空襲の実態をみていく。

1945年の3月、日本の4大都市に対してアメリカ軍の夜間低空焼夷弾攻撃が行われた。すなわち、10日未明の東京、12日未明の名古屋、13～14日の大阪、17日未明の神戸、19日未明の名古屋に対して5回にわたり大量の焼夷弾による無差別空襲が行われたのである。アメリカ軍の都市への焼夷弾攻撃は、日本の軍需生産を支える下請け工場が住居地域のなかに混在しているというのが理由だったようであるが、攻撃地域の設定からみると、「住民を大量に殺傷し、住居を焼き払って、日本国民の戦意を喪失させるのがほんとうの目的だった」といわれている⁸。

また、戦後作成の米国戦略爆撃調査団の報告書によれば、13日の深夜から翌14日未明にかけての第1回大阪大空襲について、「破壊力はとびぬけていた。大阪市の中心部は、商店、事務所、デパート、銀行、日本の都市に典型的な小さな小売店、サービス関係などを含めて焼滅した。中心地域の大部分に残ったのはが瓦レキだけであつた」と記されている⁹。このためか、大空襲といえは、大阪の人々はこの3月中旬の爆撃を思い出すのが普通であるといわれている。

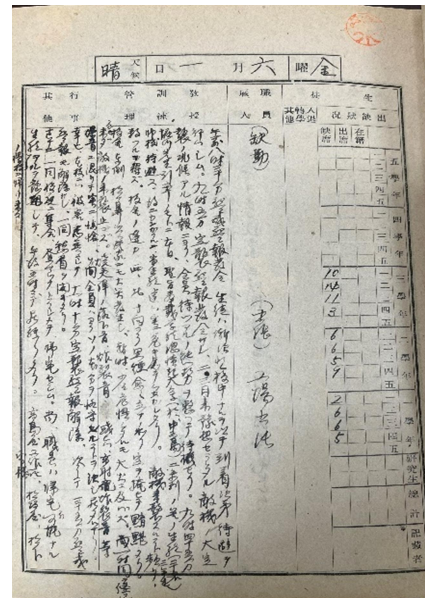
① 3月13日【図2】



ところが、3月13日の空襲に関する『日誌』の記述は、【図2】のように、簡潔だった。ただし、「第一回空襲学校北側火災」という朱書きの修正が加えられている（『日誌』の日付も修正された模様）。ちなみに、空襲の被害について、『日誌』は「罹災者 合計三九〇」と記しているが、『記念誌』にも「被害調査罹災生徒 390」（71頁）と同様の記述がみられる。

1945年3月13～14日、6月の1日、7日、15日の空襲は「大阪の四大空襲」と呼ばれているが、6月の前半に三つの大空襲が集中した¹⁰。6月1日の『日誌』の文面も、これまでの最低限の情報しか記されていなかった書き方から、【図3】のように、限られたスペースを走り書きの長文で目一杯に埋めることにかわった¹¹。

② 6月1日【図3】



6月1日の第2回大空襲は、8回のうちB29機数が最も多かった458機による昼間爆撃であった。爆撃の目標は、淀川（新淀川）左岸の地域と大阪港沿岸の地域であった。爆撃は、市の西側の海岸地帯に爆撃が集中したため、この地域にある重化学工場をはじめ、埠頭施設、船舶、倉庫などの施設には大きな被害が出たのである¹²。

『記念誌』の「略年譜」には6月1日の空襲に関する記載は見当たらないが、【図3】のように、『日誌』では次のように記している。

午前八時三十分、警戒警報発令 生徒八漸次登校中ナルヲ以テ到着次第退避ヲ行ハシム。九時五分空襲警報

発令サレ、二、三月来豫想セラレタル敵機ノ大空襲ノ兆候アル情報ニヨリ、全員待ツアルノ態勢ヲ整ヘテ待機セリ。…（中略）…

敵機来襲スルコト頻リ、数フルヲ得ズ。校舎ノ遙カ、西、北方向ヨリ黒煙愈々立ちノボリ空ヲ掩ヒテ黯黹タリ。校舎東側 松ヶ鼻■■民家ニモ火災発生シ、頓時少々危惧シタルモ大火ニ及バズ。一時間ヲ経ツ末ダ敵機ノ来襲止マズ。焼夷弾ノ落下音、炸裂音、或ハ高射砲炸裂音等 爆音ニ混リテ実ニ傷愴、（■■は判別できない箇所、以下同じ）

6月1日、学校生徒は8時30分から発令の警戒警報の最中に登校しているが、9時5分に空襲警報が発令された。「敵機ノ大空襲」の情報は事前に接したこともあり、登校した生徒と教職員は、大空襲を備えて「全員待ツアルノ態勢ヲ整ヘテ待機セリ」という行動がとられた。

大空襲の様子については、「敵機来襲スルコト頻リ、数フルヲ得ズ」という記述から、地上の学校から目視できるほどのB29爆撃機の大編隊が襲ってきたことがわかる。学校の西、北方向に「黒煙愈々立ちノボリ空ヲ掩ヒテ黯黹タリ」と、白昼を暗がりに変えるほどの黒煙が空を覆うようになった。1時間経っても爆撃はやむことなく、その間の「焼夷弾ノ落下音、炸裂音、或ハ高射砲炸裂音」などの爆音が聞こえ、「実に傷愴」だと記されている。この記述から、空襲の怖さのみならず、いたみ悲しむという『日誌』を綴る教員の心境も読み取れよう。

幸ヒ本校ニハ被害悉無ニシテ 十一時十分空襲警報解除 次イテ三十分、警戒警報モ解除サレ 一同愁眉ヲ開キタリ。直チニ、一同校庭ニ集合、昼食ヲトラシメテ、帰宅セシム

6月1日の大空襲において、東側の民家に火災が起きたが、女学校がどうやら無事だったようである。空襲警報・警戒警報解除後、生徒も教職員も「一同愁眉ヲ開」き、「直チニ、一同校庭ニ集合、昼食」をとってから帰宅する、という安堵した一コマが綴られている。

『日誌』の空襲に関する記述をよむと、たしかに事実は淡々と述べられている印象だったが、意義深い言葉が

使用されることもあって、空襲当日の緊張感が行間からにじみ出ていると思われる。

③ 6月15日【図4】

氏名	学年	空襲時	空襲後
山田 幸子	二年	無事	無事
佐藤 美子	三年	無事	無事
鈴木 清子	四年	無事	無事
田中 裕子	五年	無事	無事
高橋 由子	六年	無事	無事
中村 幸子	二年	無事	無事
山本 美子	三年	無事	無事
佐々木 清子	四年	無事	無事
渡辺 裕子	五年	無事	無事
森田 由子	六年	無事	無事

6月15日の第4回大空襲は、大阪・尼崎都市工業地域を狙う昼間焼夷弾爆撃であった¹³。6月15日の大阪大空襲を最後にしてアメリカ軍の大都市地域への大量焼夷弾攻撃は終了した。これまでの焼夷弾攻撃により、日本の六大工業都市（東京、名古屋、大阪、神戸、横浜、川崎）はほとんど壊滅したからである¹⁴。

「大阪大空襲」一覧表によれば、6月15日の大空襲で落とされた焼夷弾の量は、8回のうちに最も多かった3,157トンであり、襲来したB29も444機を数えたという。この日の大空襲はついに女学校に被害をもたらしたのである。【図4】のように、『日誌』ではそれについて次のように記している。

午前七時四十分警戒警報発令、八時十分空襲警報発令、登校シラレタル生徒一年三名、片山先生引率退避セシム、九時頃ヨリ敵機ノ来襲頻リ、職員全員待ツアルノ態勢ニテ待機シラレタリ。校舎東方ニ火ノアカリ次イデ遂ニ醜翼ハ本校内ニモ焼夷弾ヲ投下スルニ至ルタリ。運動場、舗道、温室、図書教室屋上等数多落下シタルモ全員ノ果敢ナル行動ニヨリテ、無事初期消火ニ成功、事ナキヲ得タリ、

6月1日の大空襲と比べ、今回の大空襲は、「醜翼ハ本校内ニモ焼夷弾ヲ投下スルニ至」った、とついに学校

に被害をもたらした。爆撃機 B29 については、これまでの「敵機」から「醜翼」へと表現が変わった。学校の施設に数多くの焼夷弾が着弾したが、「全員ノ果敢ナル行動」により「無事初期消火ニ成功」し、大事には至らなかったようである。

然ル中ニ南方厚生病院ニ火災発生、北方民家モ火焰ヲアゲルニ至リ、全員尚一層緊張延焼豫防ニ努メタリ、ソノ間■■ヨリノ連絡アリ。遂ニ厚生病院ノ猛火ニ包マレルニ至リ。四方火ノ海黒煙天ニ沖シテ、実ニ惨絶ノ極メトナリタリ。

ところが、学校施設の鎮火に集中する間に、学校の南方にある厚生病院と北方にある民家に火災が発生した。学校の教職員および生徒たちが懸命に延焼阻止に努める間、南方の厚生病院は、ついに「猛火ニ包マレルニ至った。」「四方火ノ海黒煙天ニ沖」するようになり、「実ニ惨絶ノ極メ」という絶望的な状況に陥ったのである。アメリカ軍の空襲は、軍事施設と戦争の遂行を支える民間工場だけではなく、民家、学校、病院などの民間施設に対しても、このように無慈悲な爆撃を加えたのである。

『記念誌』では、「略年譜」の6月15日の条で、「白昼大空爆・隣接産院焼亡、猛炎下校長職員必死の努力により校舎類焼防止。生徒の安全を期し、登校を隔日・午前・午後に分類。」(71頁)とあり、また、清水治郎校長筆と思われるメモにも「大空襲 本校外東側人家焼失、当校舎にも焼夷弾相当数落下、南側の厚生病院(現在警察病院看護婦宿舎)火災、全員消火に努めた。火気の為講堂音楽室など危険であった」と記されている(100頁)。

■むすびにかえて

以上、大阪府立夕陽丘高等女学校『学校日誌 昭和20～22年度』(請求記号：K0-0040-154)の1945年大阪大空襲に関する記述を紹介した。さしあたり、次のようなことを指摘することができよう。

第一に、空襲があった時の『日誌』の文面は、比較的に平穏な時よりも、走り書きが格段に激しくなっていることである。これは、空襲下の緊張感と、女学校を襲った空襲に対する『日誌』記入担当教員のこみあげてきた感情の表れでもあるとみてもよいであろう。第二に、『日誌』をよむと、難しい表現や漢字が散見することで

ある。さらなる検証はいると思われるが、戦前の高等学校の教員は一般的に漢学の素養が高かったという印象を読み手に与えている。第三に、『日誌』という学校文書を通じて、学校の校舎をはじめ、学校周辺の民家や学校隣接の病院などの民間施設がアメリカ軍の爆撃を受けた様子の一端を明らかにすることができたことである。

戦前の『学校日誌』という歴史的資料を活用すれば、いままでの研究では見落とされてきたこと、あるいは見えなかったことを、異なる側面から新たに掘り起こすことができると考えられる。あらためて歴史的資料の保存の大切さを感じさせる次第である。

(専門員 謝政徳)

¹ 「高知の廃校で見つかった超一級資料 95 年分の『学校日誌』戦時中は多くの『墨塗り』...山梨では『頭部階砕』子どもたちの犠牲の記録も【news23】」

<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/1359619?display=1> (2025 年 2 月 10 日最終アクセス)。また、旧大津小学校学校史資料の整理作業については、2020 年 7 月、「高知県の学校資料を考える会」と「高知城歴史博物館」が協力して資料目録づくりに取り組むと発表されている(「市史編さん便り」第 5 号、土佐清水市教育委員会生涯学習課市史編さん室、2020 年 7 月 22 日発行)。旧大津小学校学校史資料の整理作業に関する情報は、大阪府公文書館主任専門員の西村直己氏のご教示によるものである。記して感謝の意を表す。

² 仲嶺政光氏は、『学校日誌』などの学校文書について、「一つの学校的日常の系統的变化、すなわち学校文化の社会史過程を記述するうえできわめて魅力的な史料である。『学校日誌』は実に様々な情報を今日の読み手に与えてくれる」と指摘している(『『学校日誌』を読むー学校文化の社会史研究にむけて』『富山大学地域連携推進機構生涯学習部門年報』第 20 巻、2018 年、37 頁)。

³ 小山仁示『改訂 大阪大空襲一大阪が壊滅した日(新装版)』(東方出版、2018 年)2 頁。

⁴ 同上書、2 頁。

⁵ 同上書、18～19 頁。

⁶ 仲嶺政光論文、37 頁。

⁷ 『創立八十周年記念誌』(大阪府立夕陽丘高等学校、1986 年)71 頁。

⁸ 小山前掲書、72 頁。

⁹ 小山前掲書、94 頁。

¹⁰ 小山教授は、3 月と 6 月の大空襲により「大阪は壊滅した」と指摘している(小山前掲書、186 頁)。

¹¹ 1945 年の大阪空襲について、このような長文にわたる記述を残している『学校日誌』は珍しいと思われる。たとえば、田中仁『ボクらの村に戦争があったー学校日誌でみる昭和の戦争時代』(文理閣、2012 年)では、1945 年 3 月 13 日の大阪空襲を言及する福知山地域の中夜久野小の『学校日誌』を紹介しているが、「大阪神戸方面空襲ヲ受ク B29 六十機殆んど全機屠ル」としか記されていない(121 頁)。

¹² 小山前掲書、186～187 頁。

¹³ 小山前掲書、177 頁。

¹⁴ 小山前掲書、184～185 頁。

第39回大阪府公文書館運営懇談会を開催しました

令和6年12月26日(木曜日)に第39回大阪府公文書館運営懇談会を開催しました。

大阪府公文書館運営懇談会は、大阪府公文書館の運営の円滑化を図るために設置し、歴史研究分野や行政法分野、情報化分野の有識者、歴史的文化的資産を扱う図書館や博物館の関係者の方々に委員に就任いただいております。

当日は5名の委員の方々にご出席いただき、活発な意見交換が行われ、これからの公文書館運営に関し、たいへん有益な懇談会となりました。

[出席委員]

長 志珠絵 神戸大学大学院 国際文化学研究科 教授
大久保 規子 大阪大学大学院 法学研究科 教授
宮本 貴朗 大阪公立大学大学院 情報学研究科 教授
澤井 浩一 大阪歴史博物館 企画広報課長
園田 かおり 府立中之島図書館 大阪資料・古典籍課長

[議題]

- ・公文書館の運営状況について
- ・レファレンスの概要について
- ・歴史的文書資料類の収集・選別について
- ・その他

[主な議事概要]

・公文書館において、令和5年度登録した歴史的文書資料類について説明を行いました。⇒戦前の収用裁決等の簿冊を含む1,446点を登録しました。

・公文書館窓口でのレファレンス業務等の概要を説明しました。⇒令和6年のレファレンスの傾向としては、前年同様、地名の変遷調査、地形図や航空写真、神社や寺院の明細帳に関する問い合わせが寄せられました。

また、所有地の敷地境界を明確にするため第2次世界大戦中の建物疎開実施に関する資料照会であったり、メディアからは第14代大阪府知事・大久保利武氏の胸像が当公文書館で保存されているかといった照会が寄せられました。

なお、委員より、レファレンスに所蔵資料検索に関する照会が多いことについて、ホームページ掲載のFAQの見直しが必要とのご意見を頂きました。

・歴史的文書資料類の収集・選別に関して、歴史的文化的資料としての価値を有しているか、専門家の意見を聴く必要があるものを対象に、委員に対して簿冊概要や選別理由等を取りまとめた資料や簿冊原本により説明を行い、ご意見をお伺いしました。

大阪府公文書館 利用案内

- ◆ 所在地 大阪府庁本館1階（大阪市中央区大手前2丁目1-22）
- ◆ 閲覧時間 月曜日～金曜日 午前9時00分～午後5時15分
※複写申請は閉館の30分前までにお願いします。
- ◆ 休館日 土曜日、日曜日及び祝日
年末年始（12月29日～1月3日）

大阪府公文書館総合センター（公文書館及び府政情報センター）
開館時間 午前9時00分～午後5時15分



大阪府公文書館 『大阪あーかいびず』第66号 令和7年3月31日発行

〒540-8570 大阪市中央区大手前2丁目1-22（大阪府庁本館1階）／TEL06-6944-8371／FAX06-6944-2260
ホームページ <https://archives.pref.osaka.lg.jp/>（大阪あーかいびずの電子版も掲載しています）